

別紙1 事務事業評価(中間評価)シート【令和5年度】

主管課名(担当名)	総合政策室(総合政策担当)						
事務事業名	中標津空港利用促進事業				事業番号	10587	
重点プロジェクト	☐ 該当 ☒ 非該当	評価時期	☒ 中間 ☐ 事後		事務区分	☒ 自治 ☐ 法定受託	

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	2-8 地域交通の維持確保
	施策目標	市民生活を支える交通環境が充実したまち

2 事務事業の概要と目的

対 象	事務や事業が対象としている人や団体など	中標津空港利用者
	対象者の今後の予想	増加
活動内容 (事業の概要や具体的な内容、方法など)	根室市内と管内唯一の空港「中標津空港」間の交通アクセスを確保するため、バス事業者と沿線自治体(根室市、別海町、中標津町)が連携し、バス路線の運行費を負担することで路線の維持確保を図る。	
意 図 (どの様な成果を得ようとしているのか)	空港機能の一部である2次交通の充実を図り、公共交通体系の維持確保と空港を拠点とした周遊観光ルートを形成し観光客の誘致を図る。	

3 事務事業の現状

活動指標名		計画値 (H27)	実績値					目標値 (R2)	目標値 (R7)
			R1	R2	R3	R4	R5		
1	航空機離発着時の接続便数確保	4便	4便	4便	4便	4便	4便	4便	4便
2									
3									
4									
事業費(=下記内訳計)			R5予算		R5決算		R6予算		
			24,922		22,433		22,433		
内 訳	国道支出金								
	地方債								
	その他		24,922		22,433		22,433		
	一般財源		0		0		0		
人員(人工)			0.04		0.04		0.04		
職員人件費(=人員(人工)×7,455千円)			298		298		298		
総事業費(=事業費+職員人件費)			25,220		22,731		22,731		
単位コスト実績値 1(=総事業費÷成果実績値)			6,305		5,682				
単位コスト実績値 2(=総事業費÷成果実績値)									

4 事務事業の見直し状況や行政課題など

(事前評価にかかげた課題について記入)

見直し状況	☒ 検討中 ☐ 見直し・改善済み ☐ 見直しをしたが改善に至っていない ☐ 検討していない
見直しの内容など	インターネット予約による利便性の向上やHPによるPRの実施は継続して行っているが、さらに利用者の増加に向けた利用促進の取り組みを行う必要がある。 本路線は空港線であるが生活交通路線であることを再認識し、運行経路の効率化や定時性の確保など、沿線自治体及び事業者と協議していく必要がある。 令和5年10月からは、路線バスとの統合により定時運行便として運行している。
今後の動向・市民ニーズなど	自家用車の普及等によりバス利用者は非常に少ない状況であるが、通学、観光客、ビジネスマン、交通弱者等の移動手段を確保するためにも、引き続き路線の維持確保に努める必要がある。

5 事務事業の評価

ア. 意図する成果に有効に結びついていますか	☐ 結びついている ☒ 一部結びついている ☐ 結びついていない 中標津空港離発着便に接続することで、利用者の交通手段は確保されるが、根室までの移動時間が約2時間かかるなど、利便性を向上させ、利用の増加を図る必要がある。
イ. 市以外がその事業に取り組むことは可能ですか（民間、NPO等）	☐ 可能 ☐ 一部可能 ☒ 不可能 公共交通の維持確保であるため、行政以外が取り組むことは妥当ではない。
ウ. 事業内容の中で、見直しを行う必要はありますか	☒ ある ☐ 一部ある ☐ ない 空港連絡バスの性質を鑑み、運行時間の短縮を図る等、利便性の向上とともに、サービス向上による利用促進策の検討など、改善の余地はある。
エ. 単位コストまたは事業費を工夫できるアイデアはありますか	☐ ある ☒ 一部ある ☐ ない 利用促進により円滑に本来の交通路線が確保され、その結果、コスト減など運行の効率化が図られるが、抜本的な見直しは路線廃止や減少が懸念される。
オ. 他の事業との統合について可能性はありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない 利用者の減少に伴い、運行の効率化を図る観点から、将来的な路線の在り方については他の路線も含めて検討する可能性がある。
カ. 受益者に負担をいただく（又は負担を見直す）可能性はありますか	☐ ある ☐ 検討の必要性がある ☐ ない ☒ 既に負担がある 利用者は、運行にかかるバス運賃を負担しており、利用促進のためにも現状維持が妥当

6 事務事業の今後の方向性

今後の方向性	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しのうえで継続（ ☐ 拡充 ☐ 手段を見直す ☐ 効率化 ☐ 簡素化 ☐ 統合・振替） ☐ 終期設定あり（R 年度末終了予定） ☐ 休止 ☐ 廃止 ☐ 完了
--------	---

作成年月日

令和6年9月

別紙1 事務事業評価(中間評価)シート【令和5年度】

主管課名(担当名)	総合政策室(総合政策担当)			
事務事業名	生活交通路線維持対策事業	事業番号	11586	
重点プロジェクト	☐ 該当 ☒ 非該当	評価時期	☒ 中間 ☐ 事後	事務区分
				☒ 自治 ☐ 法定受託

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	2-8 地域交通の維持確保
	施策目標	市民生活を支える交通環境が充実したまち

2 事務事業の概要と目的

対 象	事務や事業が対象としている人や団体など	バス利用者
	対象者の今後の予想	現状維持
活動内容 (事業の概要や具体的な内容、方法など)	日常生活を営むうえで欠かせない公共交通を確保するため、バス事業者に対する補助金の支援を行い、生活バス路線を維持する。	
意 図 (どの様な成果を得ようとしているのか)	地域交通は、通院、通学、買い物等の日常生活における利用による「市民の足」として、また、子育て世代や高齢者が市民活動を行ううえでの「地域の足」として、経済活動及び地域活性化の基盤となることが期待されるため、維持していくことが必要。観光客やビジネス客の移動手段でもあることから、公共交通の維持は市内の消費喚起にも繋がるもの。	

3 事務事業の現状

活動指標名		計画値 (H27)	実績値					目標値 (R2)	目標値 (R7)
			R1	R2	R3	R4	R5		
1	補助対象路線の維持(釧路線、納沙布線、花咲線、厚床線、公住循環線、西浜線)	6路線	6路線	6路線	6路線	6路線	6路線	6路線	6路線
2									
3									
4									
事業費(=下記内訳計)				R5予算		R5決算		R6予算	
				43,788		45,644		45,644	
内 訳	国道支出金								
	地方債								
	その他			43,788		45,644		45,644	
	一般財源			0		0		0	
人員(人工)				0.04		0.04		0.04	
職員人件費(=人員(人工)×7,455千円)				298		298		298	
総事業費(=事業費+職員人件費)				44,086		45,942		45,942	
単位コスト実績値 1(=総事業費÷成果実績値)				7,346		7,657			
単位コスト実績値 2(=総事業費÷成果実績値)									

4 事務事業の見直し状況や行政課題など

(事前評価にかかげた課題について記入)

見直し状況	■検討中 □見直し・改善済み □見直しをしたが改善に至っていない □検討していない
見直しの内容など	高齢化の進展に伴い公共交通ニーズは高まっているものの、人口減少に伴う利用者の減少により、事業の縮小を余儀なくされている。バスのみならず、広く公共交通のあり方について、市民、交通事業者、行政等が一体となって検討していく必要がある。観光による誘客を図るにあたり、各公共交通がスムーズに接続することでより送客効果を高められ、さらに到着後の市内での移動もスムーズであれば、効率的に利用促進が図られる。観光面を主軸に公共交通のあり方を考えることで利用促進につながる手段と考える。
今後の動向・市民ニーズなど	自家用車への依存により、利用者の減少はあるものの、市民の日常生活において、公共交通の重要な移動手段であり、持続可能な公共交通体系の構築が求められる。

5 事務事業の評価

ア. 意図する成果に有効に結びついていますか	■結びついている □一部結びついている □結びついていない 地域の足であるバス路線を現状維持しているため結びついている。
イ. 市以外がその事業に取り組むことは可能ですか（民間、NPO等）	□可能 □一部可能 ■不可能 公共交通の維持確保であるため、行政以外が取り組むことは妥当ではない。
ウ. 事業内容の中で、見直しを行う必要はありますか	□ある □一部ある ■ない 見直しによってはバス路線の廃止や減少等の懸念がある。市民、事業者、行政が一体となってこれからの地域交通のあり方を協議する必要がある。
エ. 単位コストまたは事業費を工夫できるアイデアはありますか	□ある ■一部ある □ない 利用促進により円滑並びに本来の交通路線が確保され、その結果、コスト減となるが、抜本的な見直しは路線廃止や減少が懸念される。
オ. 他の事業との統合について可能性がありますか	□ある □一部ある ■ない それぞれのバス路線にはそれぞれの性質を持っているため、統合の可能性はない。
カ. 受益者に負担をいただく（又は負担を見直す）可能性はありますか	□ある □検討の必要性がある □ない ■既に負担がある 利用者は、運行にかかるバス運賃を負担しており、利用促進のためにも現状維持が妥当

6 事務事業の今後の方向性

今後の方向性	■現状のまま継続 □見直しのうえで継続（□拡充 □手段を見直す □効率化 □簡素化 □統合・振替） □終期設定あり（R 年度末終了予定） □休止 □廃止 □完了
--------	--

作成年月日

令和6年9月

別紙1

事務事業評価(中間評価)シート【令和5年度】

主管課名(担当名)	総合政策室(総合政策担当)				
事務事業名	根室本線花咲線維持確保対策事業			事業番号	12744
重点プロジェクト	☐ 該当 ☒ 非該当	評価時期	☒ 中間 ☐ 事後	事務区分	☒ 自治 ☐ 法定受託

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	2-8 地域交通の維持確保
	施策目標	市民生活を支える交通環境が充実したまち

2 事務事業の概要と目的

対 象	事務や事業が対象としている人や団体など	根室本線花咲線利用者
	対象者の今後の予想	現状維持
活動内容 (事業の概要や具体的な内容、方法など)	JR花咲線の維持・存続に向けた議論・検討をし、利用促進PR事業等を実施する。	
意 図 (どの様な成果を得ようとしているのか)	北方領土隣接地域と道央圏を結ぶ唯一の鉄路として、人的・物的交流を支える国策上重要な位置づけにあり、また、広域観光周遊ルート形成に重要な役割を持つ路線であることから、市民の通学や通院など沿線地域住民の安全安心な日常生活の維持及び根室本線花咲線を維持存続する。	

3 事務事業の現状

活動指標名		計画値 (H29)	実績値					目標値 (R2)	目標値 (R7)
			R1	R2	R3	R4	R5		
1	輸送密度の増加(根室本線・花咲線)	264人	238人	150人	174人	190人	221人	500人	600人
2	花咲線普及促進活動助成金活用団体数	—	3件	1件	2件	3件	2件	2件	4件
3									
4									
事業費（＝下記内訳計）				R5予算		R5決算		R6予算	
				39,928		15,336		20,307	
内 訳	国道支出金			5,000		1,800		5,000	
	地方債								
	その他			34,928		13,536		15,307	
	一般財源			0		0		0	
人員(人工)				0.33		0.33		0.33	
職員人件費		(＝人員(人工) × 7,455 千円)	2,460		2,460		2,460		
総事業費（＝事業費＋職員人件費）				42,388		17,796		22,767	
単位コスト実績値 1（＝総事業費÷成果実績値）				191		80			
単位コスト実績値 2（＝総事業費÷成果実績値）				21,194		8,898			

4 事務事業の見直し状況や行政課題など

(事前評価にかかげた課題について記入)

見直し状況	☐ 検討中 ☐ 見直し・改善済み ☐ 見直しをしたが改善に至っていない ☒ 検討していない
見直しの内容など	JR花咲線の維持・存続に向けた議論・検討をし、引き続き利用促進PR事業等を実施する。
今後の動向・市民ニーズなど	花咲線の魅力向上による利用促進PR事業や、花咲線を地域で支える機運の醸成に繋がる普及促進活動助成金の交付により、主に観光利用での利用者の増加を期待することができる。

5 事務事業の評価

ア. 意図する成果に有効に結びついていますか	☒ 結びついている ☐ 一部結びついている ☐ 結びついていない 花咲線の維持・存続に向けた取組みにより、交通弱者の移動手段の確保に繋がっており、また、観光利用での利用者の増加に結び付いている。
イ. 市以外がその事業に取り組むことは可能ですか(民間、NPO等)	☐ 可能 ☐ 一部可能 ☒ 不可能 地方公共団体は、交通に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、区域の諸条件に応じた施策を策定し実施する責務があることから、市が実施すべきものである。
ウ. 事業内容の中で、見直しを行う必要はありますか	☐ ある ☒ 一部ある ☐ ない JR花咲線の維持存続に向けては、乗客数や利用状況の変化等を踏まえて情報発信の在り方を見直し、ブランド形成を考えた「地球探索鉄道・花咲線」としての事業展開や、「クラウドファンディング型ふるさと納税」の戦略的な活用など取組みを進めているところであり、今後においても、関係機関と連携を図りながら、花咲線の活性化に繋がる事業を検討しながら進めていく。
エ. 単位コストまたは事業費を工夫できるアイデアはありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない 花咲線利用促進PR事業の継続的な活動のために、「クラウドファンディングふるさと納税」により、全国の2万人を超える方の支援により実施していることから、花咲線の魅力を全国の方々に発信し、利用する乗客の増加を目指し、線区の維持存続を図るための、適切な事業費による事業展開を図る。
オ. 他の事業との統合について可能性がありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない 根室本線花咲線の維持・存続に向けた唯一の取組みであり、他事業との統合の可能性はない。
カ. 受益者に負担をいただく(又は負担を見直す)可能性はありますか	☐ ある ☐ 検討の必要性がある ☒ ない ☐ 既に負担がある JR利用者や助成金活用団体の負担はあるが、本事業は、花咲線の魅力向上による利用促進PR、維持・存続を目的とした行政としての対策事業であり、受益者に負担を求めるものではない。

6 事務事業の今後の方向性

今後の方向性	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しのうえで継続 (☐ 拡充 ☐ 手段を見直す ☐ 効率化 ☐ 簡素化 ☐ 統合・振替) ☐ 終期設定あり (R 年度末終了予定) ☐ 休止 ☐ 廃止 ☐ 完了
--------	--

作成年月日

令和6年9月

別紙1 事務事業評価(中間評価)シート【令和5年度】

主管課名(担当名)	総合政策室(総合政策担当)						
事務事業名	地域公共交通確保対策事業				事業番号	12946	
重点プロジェクト	☐ 該当 ☒ 非該当	評価時期	☒ 中間 ☐ 事後		事務区分	☒ 自治 ☐ 法定受託	

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	2-8 地域交通の維持確保
	施策目標	市民生活を支える交通環境が充実したまち

2 事務事業の概要と目的

対 象	事務や事業が対象としている人や団体など	市民の代表、交通事業者、道路管理者等
	対象者の今後の予想	現状維持
活動内容 (事業の概要や具体的な内容、方法など)	公共交通利用者の減少が進むなど地域の暮らしを支える移動手段を確保する重要性が増していることから、バスやハイヤー、鉄道などの輸送資源を一体のものとして、中長期の視点に立った対策を講じていくことが必要であり、持続可能な公共交通の確保に向け「根室市地域公共交通計画」を策定し、取組みを推進する。	
意 図 (どの様な成果を得ようとしているのか)	市民の代表、交通事業者、道路管理者等で組織する「根室市地域公共交通確保対策協議会」を設立し、市内公共交通の実態調査、現状把握を行いながら、地域における公共交通の課題を整理し、地域公共交通の維持・確保に向けた取組みを進める。	

3 事務事業の現状

活動指標名		計画値 (R3)	実績値					目標値 (R2)	目標値 (R7)
			R1	R2	R3	R4	R5		
1	協議会及び部会開催回数	0回	-	-	-	5回/年	3回/年	-	3回/年
2									
3									
4									
事業費（＝下記内訳計）			R5予算		R5決算		R6予算		
			25,843		25,843		45,000		
内 訳	国道支出金								
	地方債								
	その他		25,843		25,843		45,000		
	一般財源		0		0		0		
人員(人工)			0.33		0.33		0.33		
職員人件費（＝人員(人工)× 7,455 千円）			2,460		2,460		2,460		
総事業費（＝事業費＋職員人件費）			28,303		28,303		47,460		
単位コスト実績値 1（＝総事業費÷成果実績値）			9,434		9,434				
単位コスト実績値 2（＝総事業費÷成果実績値）									

4 事務事業の見直し状況や行政課題など

(事前評価にかかげた課題について記入)

見直し状況	☐ 検討中 ☐ 見直し・改善済み ☐ 見直しをしたが改善に至っていない ☒ 検討していない
見直しの内容など	
今後の動向・市民ニーズなど	人口減少等の影響から市内公共交通の利用者数は年々減少傾向にあり、持続可能な公共交通の確保が求められている。市の公共交通の地域ニーズ等の把握に向けて、バス乗降調査や市民アンケート調査、事業者へのヒアリング、地域との意見交換を通じて、現状把握した地域課題を整理したところであり、必要に応じて実証運転を検討するなど、先進事例の調査研究を行う。

5 事務事業の評価

ア. 意図する成果に有効に結びついていますか	☒ 結びついている ☐ 一部結びついている ☐ 結びついていない
イ. 市以外がその事業に取り組むことは可能ですか（民間、NPO等）	☐ 可能 ☐ 一部可能 ☒ 不可能
ウ. 事業内容の中で、見直しを行う必要はありますか	☐ ある ☒ 一部ある ☐ ない
エ. 単位コストまたは事業費を工夫できるアイデアはありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない
オ. 他の事業との統合について可能性がありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない
カ. 受益者に負担をいただく（又は負担を見直す）可能性はありますか	☒ ある ☐ 検討の必要性がある ☐ ない ☐ 既に負担がある

6 事務事業の今後の方向性

今後の方向性	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しのうえで継続（ ☐ 拡充 ☐ 手段を見直す ☐ 効率化 ☐ 簡素化 ☐ 統合・振替） ☐ 終期設定あり（R 年度末終了予定） ☐ 休止 ☐ 廃止 ☐ 完了
--------	---

作成年月日

令和6年9月